日本・キルギスの懸け橋

突然の病と闘う元留学生
チムールさんに支援の輪

▲　チムールさん（中央）と黒瀬教授（左）、勝千代さん（右）＝都内で

日本とキルギスの友好の懸け橋として活躍してきた元留学生チョンムルノフ・チムールさん（平18院商修・40歳）の闘病に、恩師や卒業生、仲間たちの支援の輪が広がった。

チムールさんは在日キルギス大使館元書記官、同国外務省職員。日本出張中の昨年12月、激しい頭痛とだるさに見舞われた。国立がん研究センター中央病院で脳腫瘍と診断され緊急手術。手術は成功したが、さらに放射線などの治療が必要になった。

「治療費を助けよう」。専大大学院時代の恩師・黒瀬直宏元商学部教授（現・嘉悦大学大学院教授）や、チムールさんが在学中から親交があった東京都目黒区の中小企業経営者が立ち上がり、救援金を呼びかけた。

チムールさんは、「戦後日本の経済復興を支えた中小企業の現状を学びたい」と2003年来日。研究の一方、川崎市や目黒区などの外国人日本語スピーチコンテストで優勝をさらった。

博士後期課程の中途で在日キルギス大使館員に転じた。11年の東日本大震災では、震災直後に復興支援を表明したキルギス政府の窓口となり、同国から届いた大量の飲料水を宮城県の被災地へ配送する手配に奔走した。日本勤務は15年10月まで続いた。

チムールさんの手術後の経過は順調で、4月上旬に家族の待つキルギスに帰国。今後は祖国で治療を続ける。

帰国を前にした3月15日、黒瀬教授ら有志が「励ます集い」を都内で開き、チムールさんは元気な姿を見せた。

黒瀬教授は「一日も早く完治して日本に戻って来て」と激励。チムールさんの闘病を知った浪曲師・木村勝千代さん（平2文）が創作浪曲「キルギスの星」を披露、参加者全員が「チムールさん、頑張れ」と呼びかけ、支援を続けることを確認し合った。

チムールさんは「皆さんの温かいご支援を忘れません。これからも日本とキルギスの友好に尽力したい」と感激の面持ちだった。

「チムールを支援する会」ホームページを近く公開する。http://www.timur-shien.gr.jp/

専大校友を訪ねて

「街のプロデューサー」を自負する渋谷区長
長谷部（はせべ）　健（けん）さん（平8商）

「ダイバーシティー（多様性）があり、あらゆる世代が住みよい街・渋谷を作りあげたい」

広告代理店博報堂勤務6年、渋谷区議3期を経て2015年4月、東京都・渋谷区長になった。

しなやかな感性と実行力を持つ。同性カップルを「結婚」に相当する「パートナーシップ」と認める日本初の条例を施行、昨年11月に証明書の発行を始めた。これは区議時代の12年、議会で当時の区長に提案したのがきっかけ。性的少数者への偏見や差別の解消を訴え続けてきた。

さらに、地域の清掃美化活動を楽しく推進する「グリーンバード」や、生涯教育の場を提供する「シブヤ大学」（いずれもNPO）を設立するなど「街のソーシャルプロデューサー」として活躍してきた。「仲間に恵まれたことが財産」と語る。

―多様で国際的な渋谷に―

「竹の子族」「渋カジ」などの流行を生み、若者文化の発祥地として人気の同区原宿で生まれ育った。「街を知り尽くしたベテラン」を自任。渋谷の魅力を「ファッションや音楽の若者文化と、緑豊かな自然や伝統文化がある。さまざまな個性を柔軟に受け入れ、発展してきた街」と表現する。

「話のうまさは抜群。優等生とは違うやんちゃな魅力とリーダーシップでゼミの中心人物だった」と、専大時代の印象を話すのは、商学部専門ゼミの恩師・前田和實准教授。

課外活動では「オーストラリアンフットボール愛好会」に打ち込んだ。日本代表として毎年のように豪州に行き国際試合で奮闘。「現地での英語はブロークン。度胸で渡り合ってきた。ここでの活力が今の支えになっている」と振り返る。

4年後の東京五輪・パラリンピックを見据え、国際都市・渋谷を発展させたいと意欲を燃やす。

「渋谷が躍動すれば東京、日本も変わる。大それたことかもしれないが、心意気は持っていたい」。力強いメッセージを爽やかな笑顔で語る。

室井ゼミ生親睦深める
交流会に新旧88人

3月19日、東京都千代田区「スクワール麹町」で経済学部・室井義雄ゼミ交流会が開催された。同ゼミは1985年から今年3月まで合計313人の卒業生を送り出した。

この間、ほぼ2年ごとに交流会を開き、卒業生のみならず現役生も参加して、ゼミ活動の一環としても時空を超えたつながりを創っていこうとするところがユニーク。

15回目となった今回は、第4期生から3年次生の第31期生まで24世代・88人が参加した。中には遠く北海道、三重県、愛知県から駆け付けた卒業生もいた。

第30期ゼミ長の増田徹弥さん（4年次）が乾杯の音頭を取り、第21期生の鈴木将さん（平20）と菊池雄一朗さん（同）の司会で会が進められた。卒業生68人を代表して5人が近況報告。歓談後ビンゴ大会が催された。

最後は、第4期生の永井隆雄氏（昭63）のあいさつと鈴木将さんの「川越締め」で締めくくった。

幹事役は、第4期生の水田孝一氏（昭63）と第5期生の吉田孝史氏（平元）のほか、主に同ゼミ「双六会」（第4・5・6期生を中心とする親睦会。「しごろく」をもじった命名）をはじめとする卒業生の皆さんが務めた。

（室井義雄経済学部教授）

▲　多くの卒業生が参加した

現代英語研定例懇親会

学部を超えて英語を学んだ専修大学現代英語研究会（指導＝水谷弘名誉教授、元商学部教授）の定例懇親会が2月6日、東京都の新宿京王プラザホテルで開かれた＝写真。

同研究会は1974年から2006年まで続いた。英語を学びたい学生が水谷名誉教授のもとに集まり、日々のレッスンや合宿を通して、英語や人間関係を学んだ本学でもユニークな課外活動。

卒業生の組織であるパサディナクラブは会員約100人で、毎年懇親会を開催している。今回は水谷名誉教授ご夫妻をはじめ、研究会卒業生47人が全国から集まった。水谷名誉教授は「一期一会の気持ちを忘れないで」とあいさつ。参加者は近況報告とともに大学時代の思い出話に花を咲かせた。

（中川直人・昭63経済、平26院経済博）

創立30周年祝う
SLSC

サーフライフセービング愛好会（SLSC、木村亮太代表＝ネット情報3）が創立30周年を迎えた。記念式典を2月28日、東京都港区グランドプリンスホテル新高輪で開き、1期生から現役部員まで約130人が祝った＝写真。

SLSCは、千葉県九十九里浜海岸でパトロールを行うなど海難事故防止・救助の役割を担う。さらに泳力、救助技術を磨き、競技会に出場するなどスポーツとしても楽しめる愛好会だ。ライフセービングの世界大会に出場した卒業生もいる。

1985年、体育の授業（水泳）を一緒に受けていた学生たちが創立。当時、海岸での活動を目的としたクラブはほかの大学になく、SLSCは大学ライフセービングの先駆けとなった。現在、会員は40人。卒業生を合わせると約400人。

式典には日本ライフセービング協会の入谷拓哉理事長や、SLSC前顧問の石井務さん（昭41商）も駆け付けた。1期生の文珠寺裕之さん（平元経営）は「30年前はライフセービングという名の普及から取り組んだ」と草創期を振り返った。

最後に井藤秀晃OB会長（平6経営）が力強くあいさつ。今後の健闘を誓い合った。

（谷貝英男・平3法）

校友会からのお知らせ

〈石川県支部総会および馳浩大臣就任祝賀会〉
▽4月23日（土）17時30分～▽JR金沢駅から徒歩2分「金沢都ホテル」圃丹後智浩氏☎090・8266・1626

〈専修鳳歩こう会総会〉
▽4月23日（土）15時～▽JR川崎駅から徒歩1分「川崎日航ホテル」圃多藝義明氏☎090・4396・0820

〈不動産建設黒門会総会〉
▽5月21日（土）16時～▽神田キャンパス8A会議室圃大木寛之氏☎080・3413・4842

〈岐阜県連合支部総会〉
▽5月22日（日）10時30分～▽JR岐阜駅から車5分「ホテルグランヴェール岐山」圃野口晃男氏☎090・2614・0430

〈校友会幹事会〉
▽5月27日（金）18時30分～▽神田キャンパス6号館5階会議室圃校友会事務局☎03・3265・7579

アドニス75号刊行

校友会誌「アドニス」75号が4月15日に発行された。主な内容▽定時総会のご案内▽遠藤智貴さん（平28商）、小田貴大さん（平28法）、桐沢彩芽さん（平28経営）、小宮多喜次校友会長による新校友歓迎座談会▽（われら専修人）櫻井はる枝さん（昭62法）、こざわたまこさん（平21文）▽（支部紹介）中野支部長高崎孝夫さん（昭44商）

校友新社長紹介

椎塚裕一氏（しいつか・ゆういち＝平3経済）
㈱アルデプロ代表取締役社長に3月25日付で就任。本社＝東京都。総合不動産事業。

桑野光正氏（くわの・みつまさ＝昭52経済）
㈱ヤマダ電機代表取締役社長兼代表執行役員COOに4月1日付で就任。本社＝群馬県高崎市。家庭電化製品の販売と修理、リフォーム・住宅事業。

増永孝一氏（ますなが・こういち＝昭53経済）
アルフレッサ㈱代表取締役社長に4月1日付で就任。本社＝東京都。医療用医薬品、医療機器、一般用医薬品などの卸売販売事業